

様式 4

令和 4 年度第 5 回 富士見市図書館協議会 議事録						
日 時	令和 5 年 5 月 1 9 日（金）		開会	午前 1 0 時 0 0 分		
			閉会	午前 1 1 時 3 0 分		
場 所	中央図書館 視聴覚ホール					
出 席 者	委 員	出井委員長	檜山副委員長	伊垣委員	金高委員	木村委員
		欠	○	○	○	○
		小森委員	本木委員	野澤委員	野瀬委員	渡邊委員
		○	○	○	欠	○
	事務局	○教育委員会生涯学習課 森田主査 加藤主任 ○図書館 長谷川中央館館長 田畑中央館副館長 大里鶴瀬西分館長 下川ふじみ野分館長				
公 開 ・ 非 公 開	公開（傍聴者なし）					
次 第	1. 開会 2. 生涯学習課新担当職員の挨拶 3. 各館事業報告（令和 4 年度 2 月～3 月分、令和 5 年 4 月分） 中央・鶴瀬西・ふじみ野 4. その他（次回日程決定） 5. 退任委員の挨拶 6. 閉会					
配 布 資 料	・富士見市図書館協議会 令和 4 年度 5 月定例会次第 ・令和 4 年度 2 ～ 3 月～令和 5 年度 4 月活動報告（中央図書館・鶴瀬西分館・ふじみ野分館） ・さざなみだより（2 0 2 3 年 4 月号～5 月号） ・とびらしんばん（2 0 2 3 年 4 月号） ・BOOK ADVENTURES（2 0 2 3 年 5 月号） ・つるせにしんばん（2 0 2 3 年 3 月号～5 月号） ・ぶんちゃんしんばん（2 0 2 3 年 3 月号～5 月号）					

議 事 内 容

田畑副館長

1. 開会

開会あいさつ

2. 生涯学習課新担当職員の挨拶

3. 各館事業報告

出井委員長欠席の為、檜山副委員長が進行を務める。

【中央図書館】

- ・資料に基づいて報告

図書館

おはなし会は、定例の水曜・土曜以外にも、諏訪児童館にこちらが出向いたり、すわ幼稚園の園児がこちらに来たりした数字も含まれている。

映画会は、2月は蔵書点検が1週間あったので、大人と子ども、各1回ずつの開催となった。

託児サービスは、利用した方の口コミにより、知名度が広がっていて、利用者もどんどん増えている。

障がい者サービスでは、ZOOMによる対面朗読を行っている。
新聞や雑誌の記事を読んだりして、利用者に非常に喜ばれている。

勝瀬中学校の生徒によるボランティアは、4月から、今年度の希望者によるガイダンスが始まっている。

ロビーコンサートも観客がどんどん増えており、定員の24名では収まり切れなくなっている。

報告書の「ぬいぐるみおとまり会」は、毎年好評なイベントで、今回も初日に受付終了となった。このイベントは、楽しみにしている家族がたくさんいる。

<質疑応答>

委員

ロビーコンサートは、キラリ財団からのはたらきかけで行っているのか。

図書館

もともと受託計画の中に、キラリ財団と共同でコンサートを行うという項目があり、当初は年4回ほどの予定であったが、好評の為、

	今では毎月行っている。最近では 40 名以上の観客にお越しいただいている。
図書館	ロビーコンサートは、富士見市の人材バンクの方をお願いしている。
委員	ぜひ今後も人材バンクの活用をお願いしたい。
図書館	人材バンクの方やキラリでコンサートを行った方など、両方とうまく連携して行きたいと思う。
委員	私は富士見市の音訳団体‘かたりべ’から来ている。中央の障がい者サービスで、デイジー（録音図書）製作を増やそうという意見があったが、一年に 2 本はとても少ないと思う。都内の他の団体に比べると、それしか作らないのと逆に驚かれる。障がい者サービスは、予算の使い方をどのように考えているのか。また、来年度、どんな本を読もうかと図書館で話し合いが行われる予定だったが、利用者のニーズ優先で決まってしまった。もちろんそれが最優先なのはわかるが、利用者のニーズとは別に、喜ばれそうなデイジーを作っていこうという働きかけがあっても良いのではないかな。
図書館	デイジーを 1 本作るには、音訳者養成講座の上級編までを終えた方で、読む人、それを校正する人、それをデジタル編集する人、それを校正する人、と最低でも 4 人必要で、製作本数が少ないのはそこに携わる人手の問題であると思う。また、デイジーは過去ずっと、利用者のリクエストにお答えする形で製作してきたので、そういう意見があるのなら、次回の障がい者サービスの定例会の時に提案していただければと思う。
委員	今、読み手が少ないのは理解している。音訳者の中身が厚くなれば予算の心配はしなくても良いのか。
図書館	人が増えればお願いできる数は増やしていけるのではないかな。予算面よりも技術的な面が大きいと思う。養成講座をがんばって修了してほしい。
委員	最近では AI による読みもあるが、そういった方面の利用はないのか。
委員	利用者はそういったものと音訳者とを使い分けている。オーディオブックなどもその中のひとつであるが、音訳者は聞きやすく、分かりやすい読みを提供しようと努めている。ただ、色々な手段を選ぶのは良いことだと思う。

委員	さきほど、他の自治体はもっとデイジーを製作していると言っていたがどれくらい製作しているのか。
委員	練馬区は初級の講座を終えると、それぞれが区の音訳者団体に所属し、各グループに図書館からデイジー製作が振り分けられる。音訳グループが6つほどあり、少なくとも各2本くらい製作している。 かたりべでも利用者のリクエストに応じて、3本作ったことがある。
委員	デイジー1本に予算はどれくらいかかるのか。
図書館	デイジー製作は、‘読み’‘校正’‘デジタル編集’‘校正’すべて時間給が違う。本も、読みが6～7時間、それ以上あるものも多いので、音訳者の拘束時間を考えると、年に2本しか作れないのではないかな。
委員	ロビーコンサートの観客増は、図書館の利用増にもつながったのか。
図書館	つながっている。これをきっかけに図書館に来ていただく人が増えると良いと思う。
	【鶴瀬西分館】 ・資料に基づいて報告
図書館	おはなし会は、乳幼児の参加が多かった。 4月16日には、昨年も参加して下さった図書館 YA サポーター（高校生）から、今年もおはなし会に参加したいと申し出があり協力をお願いした。 児童の展示周りはあまり広くないが、山も紅葉から雪模様へ、また新緑への交換をして季節感を表している。 西分館は、4月からPFIから指定管理に変わったので、気持ちも新たに、子育て展示のブースを変えた。お母さんと子どもさんが一緒に読めるように工夫した。 モモの本（乳幼児向け）が増えてきたので、棚を4段から5段に増やした。 事業報告「3.11をわすれない」。昨年度も行ったが、たくさんの貸出にはつながらなかったが手にとる人は多かった。先日、北陸地方の

委員 図書館	写真集を寄贈して頂いたので、今後使っていきたい。3.11を風化させないことが大切なので、今後も続けていく。 学校連携報告は、ひまわり学級はコロナ対策で、今まではこちらから出向いて行ったが、久しぶりに来館された。 Y Aサポーターの中学生が、8月のY Aスタッフが行う講座の試作品を繰り返し作ってくれた。とても意欲的に作業をしてくれた。 「図書館博士～本探しの名人になろう～」は、いつも行っている講座であるが、なかなか分類の話の時間が取れないので、理解を深めるために、クイズ形式で行いながら、いろんな棚に行ってもらい体験してもらった。参加人数は少なかったが、司書とマンツーマンで行えた。 4月の子ども読書週間には、春の児童配布企画「はばたけ本の虫バグネット」を行った。本を読む機会になって欲しいと、1度に5冊以上貸出すると、本の虫と呼ばれるバグネットがもらえる企画。今回は棚を作らず、自分たちで本を選んで持ってきてもらった。自分で本を選ぶ力をつけてもらいたくこのような企画にした。 「こいのぼりをかざろう」恒例企画である。親子で参加したり、子どもだけで参加したり、折り図を渡して作ってもらった。終了時には館内が賑やかになった。 「セカンドブック事業」は、4月5日つるせ台小学校に図書館利用カードと電子図書館申込書各94件持って行った。鶴瀬小学校4月に回収5月にお渡しになる。 「つるせ台コーナー」が新年度になり本も切り替わっている。たくさん利用して欲しい。 <質疑応答> 「先生の本棚」とはどういったものか。 子ども達に本を勧めてくれる先生たちにも、本の理解を深めてもらおうと、忙しくてなかなか図書館に来られない先生たちのために、こちらから本の貸出を行っている。この取組みは何年も続いている。当初、担当の校長先生が、職員は1日1回、必ず印刷室に寄るので、ここの棚に置いて欲しいと言われ、毎月貸出をしている。内容は、授業で使っていただけるような本や、先生ご自身が読む本を選ぶこともある、リクエストも受けている。
--	---

委員	P F I で、学校と図書館が作り出したとても良い取り組みだと思う。他の学校にもやってもらいたい。
委員	がん情報コーナーが市民の要望を見ながら継続されているのがすばらしい。
図書館	ありがとうございます。続けていきたい。
図書館	がん情報コーナーは、中央から分館、健康増進センターにも展開している。
図書館	【ふじみ野分館】 ・資料に基づいて報告 おはなし会は 4 月に入ってコロナ対策が緩和されたので、慶櫻ふじみ保育園のおはなし会が再開された。まだコロナが終わったわけではないので、3 つのグループに分けて、4～5 歳児は図書館に来館しておはなし会を行い、0・1・2・3 歳については、こちらから保育園に伺っておはなし会をしている。コロナ禍は園に本をお届けして、それを使って先生方が読み聞かせをしていたが、またそれとは違い、子どもたちはおはなし会を愉しみにしているというお言葉をいただいた。4,5 歳児については今後、おはなし会の後に、館内を利用することも考えている。 ぶんちゃんひろば 2 月は科学あそびで、「静電気モーター」、3 月は絵画・芸術に触れてみよう「デカルコマニー」、4 月も科学あそびで、「空気を実験してみよう」を行った。 静電気モーターは、静電気を起こしてモーターをくるくる回すもので、小さい子には少し難しかったが、ここを入口に、科学に親しんでもらえればと思う。 静電気の第 2 弾として、静電気で動く簡単なおもちゃをカウンターに置いてある。こちらは大人の方も興味をもってください、科学の不思議に驚かされている。 「デカルコマニー」は、小さい子から大人まで、楽しんでもらえた。紙に絵の具をたらして、その上に紙を置いて、ぱったんと開いて、どんな模様ができているか楽しむもので、出来上がった皆さんの作品は、図書館の廊下に掲示した。 4 月の「空気で実験をしてみよう」は、空気で実験をするという資料がかなりあるので、最初に資料を紹介して、この中に載っているものをみんなでやってみましょうという形で進めた。これまでは「こ

れをつくります」というのが多いが、今回は「最初に資料ありき」で、これが夏休みの資料の探求につながっていくといいなと思う。

2月は年に一回の一般映画会を行った。7名の参加者であった。

また自主事業として毎年行っている「科学道 100 冊」と合わせて、「沈黙の春」で、環境問題を提起した、レイチェル・カーソンの、「沈黙の春」の出版 60 年を記念したパネル展を行った。レイチェル・カーソンは、「センス・オブ・ワンダー」という本も書かれていて、子どもたちのセンス・オブ・ワンダーを大切にしたいという私たちの思いにもつなげた。来館した利用者も目を留めて下さる方が多かった。

外部連携では、中央図書館と同様、勝瀬中学校のボランティアの受け入れを行った。ふじみ野分館は配架ではなく、イベントの手伝いをお願いしている。

勝瀬小学校、ふじみ野小学校の新一年生の利用登録と、電子図書館の利用登録をした。近隣のふじみ野保育園、慶櫻ふじみ保育園には、ぶんちゃんしんぶんを各世帯に配布。慶櫻ふじみについては、絵本のお届けをしていたが、4月からおはなし会も復活したので、3月で終了した。

ふじみ野児童館との連携ではアニメーションを実施した。

小学生対象のイベントである。小学生向けのアプローチとして児童館により機会をいただいている。小学生 5 名の参加があった。アニメーションのリピーターもいて、深く読んでいく技術も身につけていくかと思うので、今後も続けて行きたい。

ふじみ野交流センターとの連携。ふじみ野じゅくには、毎月資料を提供している。3月のふじみ野じゅくは、「本に出会う」ということで、ふじみの塾生の方が、講師でいろいろお話ししてくださった。最後に図書館から PR もさせていただいた。

ふじみの文化祭では、3月 4～5 日ワークショップとして、幼児向けと大人向けで折り染め体験でそれぞれの物を作っていただいた。前回の協議会でもお知らせをさせていただいた、ふじみビデオクラブによる「ビデオで振り返る富士見市勝瀬」を上映した。かなり反響が大きく、大変多くの方にご参加いただいた。ビデオは図書館で所蔵している。ふじみ野分館ではカウンターに置いてあり、多くの方が借りてくださっている。

テーマ展示について。子育てライブラリーの展示の様子を載せている。ぶんちゃんしんぶんには、児童のおすすめと、子育てライブラ

	リーから、お子さんと一緒に読めるもの、育児のヒントになるようなものを紹介している。 3月21日に行われた、「富士見クラフトビアフェスタ」に合わせて、ビールの展示を行った。手に取る方が多かった。 4月の文学展示は「春ですね」。何か読んでみたいけど、何を読んだらいいのかわからない、何かおススメはないかという方が良く見てくださって、借りていただくことが多い。 また館内企画として、来館したお子さんに折り紙を折っていただき、それを展示している。 3月はひなまつり、4月はイースター、5月はこいのぼりであった。 職員研修について。レファレンス研修は、中央館のレファレンス研修を受けたスタッフが、各分館のスタッフにおろす研修で、3館同様のレファレンス対応ができるよう行った。 絵本講座は、昨年11月に「絵本と音楽」でお世話になった、まるのみなさんが、現保育士で、なおかつ絵本を作成している方で、ゆくゆくは絵本の講座を開きたいということで、まずは、分館スタッフにどんなものか見ていただきたいということで実現した。スタッフの研修として受けた。今後に活かしていきたい。
委員	<質疑応答> 静電気で動くモーターは、今も分館にあるのか？
図書館	見本として作成した物がある。カウンターにはもっと簡単に静電気が感じられるものが置いてある。
委員	モーターは作ったことがあるが、静電気で動くイメージがわからないのでぜひ見に行きたい。
委員	質問ではなく、感想だが、富士見市の図書館が好きである。 3館とも居心地の良いところだな、と思う。 ふじみ野分館のアニマシオンに関わる、放課後の子どもたちの居場所について、本に触れられる機会を作るのに、児童館の中で、何かできたらいいなと思う。ふじみ野市には、「こぼと文庫」とか地域文庫がいくつかある。これらはそもそも地域の保護者の方が中心になって始めたものが、ずっと続いている。 図書館に行かなくても、放課後、家の近くで本に接したり、本を話題にして触れ合う時間と場所があるのはいいなと思う。図書館まで

	足を延ばさなくても、児童館で、読書の機会を持てるように大人が働きかけてもいいのではないかと思います。
図書館	ふじみ野児童館には図書室が小さいながらもあって、以前はおはなし会もさせてもらっていたが、小学生向けに何かアプローチできることを考えていきたい。
委員	ふじみ野分館は児童向けの行事が手厚いが、ふじみ野文化祭にきていただいたのは成人の方が多かったと思う。以前、大人向けのイベントを増やすという話があったが、どうなったか。
図書館	ふじみ野文化祭では大人向けの折り染めを行い、2月に一般映画会も行った。大人用イベントについて、何か良い案があればいただきたい。
委員長	年間計画として入れられるのなら、3館連携してできるものがあると良いと思う。
委員	先ほどの意見にもつながるが、子どもたちの放課後の居場所は大事である。特に針ヶ谷小のように図書館が近くにはないところでは、例えば針ヶ谷コミセンのスペースを借りて、読み聞かせなどできないか。子どもは思っている以上に、読み聞かせが好きであり、とても集中しておはなしを聞いている。図書館の係の方は忙しいので、例えばボランティアの方に来ていただいて連携し、地域に広がっていったらよいと思う。次に、ふじみ野分館の空気の実験、これを選ぶというのが素晴らしい。資料があって、そこから選ぶということがいいと思う。私たちが子供の頃受けていた、こうしなさい、ああしなさいという一斉授業に子どもたちを入れるのではなくて、子どもがいろんなところから、やりたいものを選択して学ぶということが大事になってきている中で、こういった取り組みはとても良いと思う。 また、今回「セカンドブック」を、本が選べるという方法に変えていただきありがとうございました。ただ、職員がなかなか大変なので、たとえばQRコードを読み取ってもらうなど、やり方を工夫できるとなお良いと思う。 保護者が直接図書館と取引できるとか、希望を出した、出していないなどの問題があるので、期日までに選択していただけなかった場合には、セレクトしてお送りします、みたいな形で構わないと思う。やり方によっては、子どもの思いも地域の思いも広がる取組みになると思うので、ぜひ相談していきたい。
図書館	「セカンドブック」について、2校伺った中では、先生によって受け取り方が違った。生徒数も学校によって違うので、ばらつきがあっ

	て事務処理も大変かと思う。今回、選択制の希望があり、FORMS でできないかと思ったが、学校側から難しいとの回答があった。各 200 冊くらいを来週からお届けする。やり方については、学校教育課とも相談しながら、スムーズにいくように変更していきたい。また先ほどの文庫の件だが、自分はふじみ野にもいたことがあるが、もともと大井地区に文庫がいくつかあって、市民の方が図書館を立ち上げたいきさつがあり、今も根付いている。
委員	「さざなみ」を読んでいると、[新規雑誌受入れのお知らせ]とあるが、決まる経緯等あるのか。中央館に行ったときに、よく雑誌の閲覧をするが、中央館はメジャーな雑誌が沢山あるが、分館には雑誌の数が少ない。もし可能であれば、中央にある雑誌を分館にも置いていただけないか。予約すれば良いのはわかるが、1 ヶ月後になってしまうので、その図書館を利用している身として、できればお願いしたい。
図書館	限られた予算の中で購入することと、幅広い分野の中で購入しなくてはいけないことから、なるべく複本にはしないとあったことがあるが、週刊誌などは動きが多いため、複本で持っていることがあるが、一般的なものはできるだけ広い分野で揃えようとしている。分館を利用する方には申し訳ないが、中央館 200 冊、分館だと 60 冊くらいになってしまうので、予約してくださいとしか言えない。雑誌の入れ替えについては、休刊したり、刊行頻度が変わってしまう事案が多数発生している。そうなったときに次に何を買うかは、利用者のリクエストや、他の自治体から借りて提供しているものなど、そういったものを念頭に入れて、皆で相談して決めている。なくなったものに近いジャンルの物を選んだり、リクエストに沿って新たなジャンルで選んだりもしている。雑誌も本も人気のあるものは予約で埋まってしまい、目に触れないことがある。
委員	他には意見はないか。
委員	私はいつも乳幼児を見ている立場なので、どんなに小さくても子供が「本読んで」と、持ってくるここでの関係性が、子供たちの心を豊かにしていく。そしてそれが大人にもつながっていく。本に触れていく、親子で触れていく、そして、子供が友達と触れていく、そういった様々な活動が本当に素晴らしいと思う。継続していくこと、広げていくことの難しさもあるが、いい知恵が出しあえる場になればよいと思う。 4. その他（次回日程決定）

	次回は、6 月 30 日（金）午前 10 時からレセプションルームで開催する。
--	---

	5. 退任委員ご挨拶
--	------------

	6. 閉会
--	-------